

日本共産党倉敷市議会議員

田辺昭夫
ニュースVol. 52
2006, 3, 5

2月市議会

これ以上

「チボりに税金を使わない
というスタンスは変わらない」

古市健三市長が明確に答弁！

現在開かれている2月市議会で、古市市長は「チボリの存続にむけて協力は惜しまないが、これまで記者会見で述べてきた『倉敷市の税金は投入しない』とのスタンスは変わっていない」と明確に述べました。

これは、日本共産党の小山博通市議の代表質問に答えたものです。

小山市議は、「チボリは、岡山市に断られた岡山県が倉敷市に押し付け、倉敷市はチボリへの財政負担はしないことを条件に誘致した。倉敷市に負担を求めるのは約束違反であり、税金投入はぜったいにすべきでない」と市長に迫りました。

岡山県が倉敷市に新たな負担を提案

「倉敷チボリ公園」については、破綻寸前のチボリを再建しようと、岡山県が、「今後のあり方についての検討委員会」を設置するとともに、3つの方向性のパターンを提示しています。

その内容は、県からの補助金は打ち切り、チボリ社の更なる経営改革による自主再建を行う。倉敷市には固定資産相当分の財政負担を求める 県民・市民公園化（指定管理者制度の導入）倉敷市に一定の支援を求める、公的支援は終了し、民間経営化を目指す（受皿企業がない場合は閉園）の3案です。

許せないのは、案も案も新たな倉敷市の負担を求めていることです。

田辺昭夫市議の一般質問

3月7日（火）
午前10時30分以降

そしてお客は誰もいなかった・・・

倉敷市民は入園料無料ということで、平日の午後チボリに行って来ました。くらしき生活文化祭も開かれているというのに、屋台は閉まり、まさに閑古鳥が鳴いていました。チボリの終焉はもう目の前では・・・

「税金使うな」の声をひろげよう

倉敷市長が「税金投入しない」という意志をあらためて発言したことは、極めて重要な意義をもつものです。県は3月中にチボリの方向性について結論を出すといわれています。「チボリのこれ以上税金使うな」の声を上げましょう。